

【様式4】令和2年度 学校自己、及び、学校関係者評価表 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校

経営理念	○確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよくもった生徒の育成 ○生徒を見る確かな目を持ち、主体的・対話的で深い学びを実践できる教師の育成 ○組織的に生徒の成長を支え、保護者や地域に丁寧に説明することで信頼される学校づくり
------	--

【学校運営協議会・会長】 椎野 芳拳
学校運営協議会（学校評価分） 第1回 4月30日（木）
第2回 11月17日（火）
第3回 3月2日（火）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価	
				9月・12月		最終評価				意見	評価点 (4点満点)
				達成値	達成値	達成度	評価				
確かな学力の向上	【中期】 基礎・基本の学力の定着を図る 【短期】 授業力を向上させ分ける授業を行う	・家庭学習ノートで家庭学習の習慣を定着させる ・新学習指導要領に示された主体的・対話的な深い学びを意識した授業改善を小中合同で行う。 ・小学校とプリッソプログラムを推進し、生徒のつまずきに対応する	・家庭学習ノート提出率調査 ・教師の自己評価 ・生徒の学習意欲に関する調査	85%		72%	B	昨年に引き続き、家庭学習の定着は徐々にではあるが図られてきている。また、小学校との合同授業研究により、主体的・対話的な深い学びを意識した授業改善を行った。	外部人材を活用した学習支援策を次年度も継続する。 ・数学授業内での学習補助 ・夏期休業中の補習教室での学習補助 ・放課後の基礎力アップ講座（3年数学）	・夏季補習など授業時数が少ない中において、できることをやれていたと思う。 ・学習意欲のない子供に対してのアプローチを増やしてほしい。 ・家庭学習ノートの活用が定着してきているのは良い。今後は上手な学習法などを共有できるとよい。	3.0
	【中期】 基礎・基本の学力の定着を図る 【短期】 文章に親しみ読み取る力を伸ばす	・スプリングコンテストや漢字テストを継続的に取り組み、定着が図れるよう行う。 ・朝の読書を通して読書習慣を定着させる ・図書館を活用し、司書連携して本への興味・関心を高め、読書量を増やす	・スプリングコンテストの上位得点者の比率 ・教師の自己評価 ・図書室利用調査	85%		64%	B	スプリングコンテストは毎学期実施した。出題数をこれまでの100問から25問に減らし実施回数を増やしたことで、生徒は前向きに取り組むようになった。昨年度に引き続き、朝読書は定着しており、生徒は静かに取り組んでいる。また、図書委員会の取組もあり、図書室利用者も多くなっている。	スプリングコンテストや漢字テストの取組を継続する。教科書の授業等で図書室利用者を増やしたり、読書する生徒と読書時間の増加を図ったりする取組を、図書主任が中心となって推進する。	・一度に多くより、小テストを繰り返した方法は効果があると考えられる。 ・スプリングコンテストの問題数を減らし実施回数を増やしたのはとても良いと思う。少ない問いならできる子も増えるはず。	3.5
	【中期】 言語活動の充実 【短期】 行事に向けて学級内での話し合い活動を活発に行う	・全ての授業に計画的、効果的な言語活動を取り入れる ・話し合い活動を中心に特別活動を展開する ・行事のふり返りを各学級で話し合っまとめる	・教師の自己評価 ・生徒の自己評価 ・行事の反省アンケート	85%		75%	B	特別活動における話し合いは、全学年とも定着している。生徒は積極的に話し合い活動を行うことができる。しかし、コロナ禍で、行事等の中止や縮小により、生徒の活動の機会が限定的となってしまった。	タブレット端末を活用して、授業やその他の活動を活性化し知識や技能の開発と共有に取り組む。	・意思を伝えられるための言語力を伸ばすためにも、対話のチャンスを増やす（デジタル化ならなおさら）	3.3
豊かな心の育成	【中期】 思いやりのある生徒を育ていじめを撲滅する 【短期】 道徳教育の充実を図る	・心に迫る教材の開発と活用 ・ローテーション授業を行い道徳の授業を充実させる ・連絡帳を活用して教育相談機能を充実させる	・教師の自己評価 ・生徒の自己評価 ・生徒へのいじめ・生活アンケート調査	80%		77%	B	月1回の全校朝礼における校長講話や道徳のローテーション授業を行い、道徳教育の充実を図ることができた。また、学園会議の道徳分科会をととして、道徳教育について小学校と連携を図った。	今年度はコロナ禍で、学園会議や小中合同の取組が激減してしまい、小学校との連携は不十分であった。次年度は、連携方法を検討・工夫することで、特別の教科道徳の指導方法や評価についての研究を進めていく。	・今年度は心理的に不安定であった。不登校解消につながる施策が取れるとよい。	3.3
	【中期】 活気のある生徒の育成 【短期】 生徒主体の達成感のある行事の創造	・生徒一人一人が役割をもって行事運営を行う ・生徒会朝礼で、自治活動の活性化を図る	・教師の自己評価 ・行事のふり返り作文 ・生徒委員会の反省 ・保護者の学校評価	85%		93%	A	コロナ禍で様々な制限のある中、可能な範囲で、生徒が主体となって運動会や合唱発表会、学年行事等を行うよう指導を行ってきた。生徒一人一人に活躍の場を与え、達成感や充実感を感じさせることを最優先に、取組を工夫した。	引き続き、学校行や学年行事を中心に、生徒が主体的に考え行動できる機会を増やし、経験させることで自治能力を向上させていく。また、生徒会朝会の時間を有効に使い、生徒の自治能力を高めていく。	・制限のある行動下において、生徒は主体的にできていた。 ・いつも同じ子、やる気のある子、勉強のできる子がリーダーをやっているような気がする。	3.8
	【中期】 一人一人を大切に生徒指導の実践 【短期】 特別支援教育の充実	・不登校や特別な支援を必要とする生徒に関連機関と連携しながら組織的に取り組む ・特別支援教育の手法を生かした学級経営や教科指導を実践する	・教師の自己評価 ・保護者の評価 ・地域関係者の評価	85%		82%	A	昨年度不登校だった生徒が、今年度学校に登校できるようになったり、適応指導教室に行けるようになったりした事例は、2年生で4件、3年生で3件である。今後も、組織的な対応と関係機関との迅速な連携を継続していく。	来年度も教育相談主任を中心とした教育相談部会を毎週行う。また、年度当初からスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを部会に参加させることで対応策の質を高め、関係機関との迅速な連携強化を図る（通年）	・給食と1時限だけでも登校するなど、少しずつものびるとよい。	3.3
健やかな体の育成	【中期】 体力の向上 【短期】 持久力の向上を図る	・体力向上月間を設定し、小学校と連携してランニングウォーキングイベントを行う ・運動部を活性化させる	・新体力テスト ・生徒の自己評価 ・イベントへの参加率	85%		79%	B	体育の授業の他、今年度も11月にランニングウォーキング週間を実施し、持久力向上の取組を行った。しかし、コロナ禍で小学生は不参加となってしまった。また、緊急事態宣言等で、運動部の活動時間確保が困難な状況であった。	コロナ禍でも行えた取組は継続していく。また、工夫することで小中合同で行える体力向上の取組を検討していく。	・グラウンドの水はけの改善については、PTAも協力していく。 ・感染症対策をした上で、できることを増やしていけるとよい。	3.5
	【中期】 健康を自己管理できる生徒の育成 【短期】 健康意識の向上を図る	・新型コロナウイルスへの対策を徹底させる ・栄養教諭による講習会の実施 ・給食後の歯磨きを実施	・教師の自己評価 ・保健委員会の調査 ・生徒の自己評価	85%		85%	A	新型コロナウイルス感染症予防への対策徹底は、設備等を含め定着してきた。また、栄養教諭による食育の授業を年3回（各学年1回）実施した。委員会活動も活発になり、全校での取組状況が上がっている。	来年度も栄養教諭の食育講座を全学年行っていく。委員会による活動をさらに活発化させ、給食の残食率をさらに低下させる。給食後の歯磨きを全学年で継続する。	・現状のままでよい。 ・感染症対策には歯磨きも大切だとのこと。しかし、歯磨きで感染しているケースもあるので、感染症予防対策は大切。	4.0
	【中期】 カバレッジ・バリエーション教育の推進 【短期】 スポーツへの関心を高める	・NIEによるオリンピック・パラリンピック学習の推進 ・「アワード校」として運動器具を充実させ、体力の向上を図る	・生徒の自己評価 ・教師の評価 ・地域関係者の評価 ・保護者の評価	80%		77%	B	オリパラ教育において、パラリンピアンの方を招聘して講演会を実施した。また、道徳の授業とタイアップしたことで障害者に対する理解もより深まった。オリンピック・パラリンピック教育事業費（アワード校）を活用した運動器具の充実を行った。	今年度まで、パラリンピアンを招聘してオリンピック・パラリンピック教育を進めてきた。来年度はオリンピック・パラリンピックイヤーなので、感染症拡大防止策を踏まえた上で、生徒のスポーツへの関心が高まるような取組を検討していく。	・今年度のような取組を継続してほしい。	3.5
※学校裁量	【中期】 地域・保護者と連携した学校運営 【短期】 地域・保護者の教育力を活用する	・地域行事や地域ボランティアへの積極的な参加 ・保護者による家庭学習の点検・確認を行う ・英語や漢字検定試験の監督、面接官に学校運営協議会委員・地域人材を活用し、教育活動を充実させる	・地域関係者の評価 ・保護者の評価	90%		57%	B	コロナ禍で、地域行事や小学校行事への参加の機会が激減してしまった。ボランティア部がPTA花の植え替え2回、ボランティア部と男子バスケットボール部がPTA2サイクルに1回の参加にとどまっている。英語検定や漢字検定の試験監督に学校運営協議会の協力をいただいた。	コロナ禍の状況を踏まえた上で、今年度実施できた取組は継続する。学校運営協議会には、来年度も英語検定や漢字検定の試験監督、面接官への協力をお願いしたい。	・大南学園として七小との連権をより推進すべき。 ・今年はコロナの関係で、保護者と学校の関わりが減り残念であった。もっと色んな人が参加できるようにイベントを検討してほしい。	3.3
	【中期】 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う 【短期】 道徳教育の充実を図る	・考え議論する道徳の実践 ・指導法の工夫により、子供の心の育成に努める	・保護者の学校評価 ・生徒の自己評価 ・教師の自己評価	85%		73%	B	毎学期に1回道徳の研究授業を行い、その内2回は外部講師を招聘して、道徳の指導法や評価について研修を深めた。少しずつであるが、生徒は授業の中で考え、議論することができるようになってきた。	タブレット端末を活用した授業による教員の授業力の向上を図る。そのために、次年度はICT機器活用の校内研修会を年間を通して実施する。	・今年度のような取組を継続してほしい。	3.3
	【中期】 個に応じた指導の充実 【短期】 特別支援教育の理解と実践	・特別支援教室（サポート教室）の活用 ・巡回指導員、専門員、心理士を活用し、特別支援教育を充実させる ・特別支援教育についての研修会を行い、教員の知識と指導力向上を図る	・生徒の自己評価 ・教師の自己評価 ・地域関係者の評価 ・保護者の評価	85%		84%	A	巡回指導員や専門員、心理士との連携により、支援の必要な生徒を特別支援教室へつなげることができた。また、外部講師を招聘した2回の校内研修会と年間を通じた研修部の取組により、全教員の特別支援教育への理解が深まり、実践力が高まった。	引き続き、巡回指導員や専門員、心理士の協力を仰ぎ、特別支援教育を推進していく。	・特別支援に関して現状がよくわからない。あまり情報が出ていないように思える。	3.3

平均値 3.4

【達成度】 = [達成値] / [目標値]  
 【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し